

2011年4月26日

がんへの備え “三種の神器” は 「早期発見のための検診受診」「がんに関する知識」「経済的備え」

～がんセミナー来場者へのアンケート調査結果から見えるがんへの意識～

アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社、日本における代表者・社長：外池 徹）は、昨年、全国各都市で展開したがんに関するセミナーや展示会等の来場者に、アンケート調査を実施しました。すでに昨年8月23日に中間結果を報告済みですが、今回通年の集計結果をまとめましたので、ご報告します。（詳細は別紙をご参照ください）

1. がん告知について

- 医師からの告知を希望する人は95.2%にのぼり、そのほとんど(93.4%)が完治の確率や余命等の説明も希望している。現実を受け入れ、病気と向き合って治療に臨む姿勢がうかがえる。

2. がんに関する不安について

- がんの経験が無い人は、がんと聞いて最初に「治療費（経済的負担）」を心配する一方、がんの経験がある人は「再発・転移」「死」といった自分自身の今後のことを心配する。そして治療が開始されてからは特に「再発・転移」を気にする傾向がある。

3. がん治療費用について

- がんの経験を持つ人の回答は、「50万円程度」が36.3%で、「100～200万円程度」が49.7%、「300万円程度～それ以上」という回答は12.1%あった。
- 治療費は、早期発見・早期治療により抑えられるケースがある一方、再発・転移等によって高額になるなど、がんの状態等により回答者ごと費用総額が異なる。なお、治療費を「保険」でまかなった人の割合は「貯蓄」を超えて48.5%にのぼった。

4. がん検診受診について

- がんの経験が無い人でがん検診を受けていると回答した人は6割を超えた。また、がん経験を持つ人のうち、定期健診や住民検診でがんが発見された人は31.9%にのぼった。
- がん経験を持つ人が必要だと考える“がんへの備え”は、多い順に「早期発見のための検診受診」「がんに関する知識」「経済的備え」が挙げられた。「検診」「知識」「保障」は、がんの予防や治療のための“三種の神器”といえそうだ。

アフラックは、国や地方自治体と連携したがん啓発活動に積極的に取り組んでいます。

2011年3月末時点で86自治体（全47都道府県、39市区町）とがん検診受診率向上などを目的とした提携を行っており、さらに各自治体と協力のうえ、がんに関するセミナーや展示会などの各種イベントを実施し、がんの早期発見・早期治療の推進に取り組んでまいります。

がんに関する意識調査（詳細）

<はじめに>

アフラックは1974年に日本初のがん保険とともに、日本で事業を開始し、昨年秋で創業37年目を迎えました。創業当時は「がん」についての国民の認識は現在と大きく異なり、“不治の病”と恐れられるだけでなく、その話題すら避けたがる風潮がまだ残っている時代でした。

「がんによる経済的悲劇から人々を救いたい」という想いで活動を続け、保険商品やサービスの提供のみならず、アフラックペアレンツハウス、公益信託アフラックがん遺児奨学基金などのがんに関する社会貢献活動や、がん検診受診率向上、がんに関する情報提供などを目的とした各種啓発活動を通じ、あらゆる面でその想いを実現しています。

日本人の死因第一位である「がん」は、残念ながら日本人にはまだまだ知られていないことが多く、がんになってから突然不安に陥る人が多いのも事実です。

今回、アフラックでは「がんに関する意識調査」をがんの経験がある人、無い人で分けて回答していただくことにより、がんにかかって初めて感じたこと、かかる前に知っておきたかったことが何かを探ることができました。より多くの人にこの調査結果をご覧ください。誰にとっても身近な問題であるがんと向きあう心の準備をしていただければと願っております。

【調査概要】

方法) がんに関するイベント来場者にアンケートを配布（イベント一覧は末尾掲載）

- ・来場者総数：44,900名
- ・アンケート回収総数：15,333件
- ・有効回答数：12,843件（一部回答を含む）

期間) 2010年2月～2010年12月

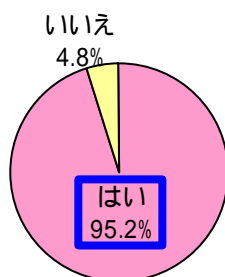
主体) アフラック

目的) がんに関するイベントの来場者を対象としたアンケート調査により、がんに対する関心・意識が高いと考えられる母集団における意識の動向を把握する。

1. がん告知について

Q1. がんになったとき、あなたは医者からの告知を望みますか？

（がん経験の無い12,008名が回答）



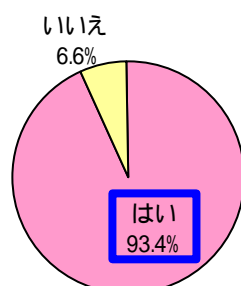
がんの告知を望む人は、95.2%と圧倒的に多い。

その中で、完治の確率、余命等の説明を望む人も93.4%にのぼった。

アフラックが日本に進出した当初は、がんの本人告知はほとんど行われていなかったため、がん保険支払い時に患者本人にがんであることを悟られないようにすることは必須条件であった。昨今では、医療技術の向上により、がんが「不治の病」でなくなったことから医師による病名告知がスタンダードとなった。芸能人をはじめとする著名人の「がん公表」なども、がんを受け入れる環境が進んだ一因といえよう。

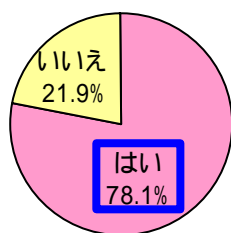
Q2. 告知では、完治の確率、余命等の情報も望みますか？

（がん経験の無い11,664名が回答）



Q3. 告知を受けるときは、家族の同席を望みますか？

(がん経験の無い11,911名が回答)



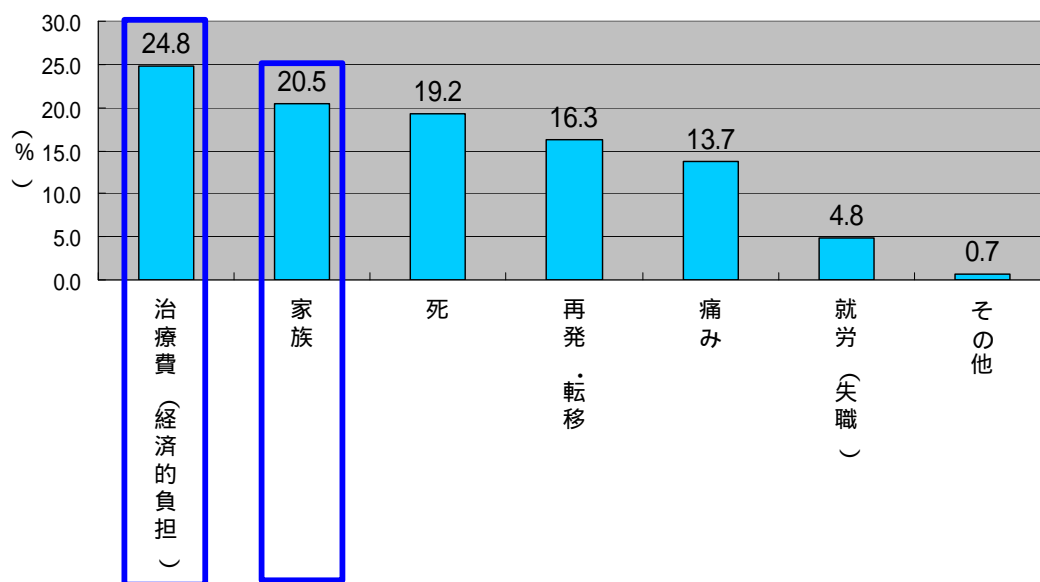
告知時に家族の同席を望む人は約8割となった。

2009年6月にアフラックがまとめた『がん患者の悩み・ニーズに関する実態調査*』の中でも、がん患者専門カウンセラーとの面談に家族が関わるケースが77.0%にのぼり、がんという病気を本人だけではなく、家族全体の問題として捉える傾向があるといえる。

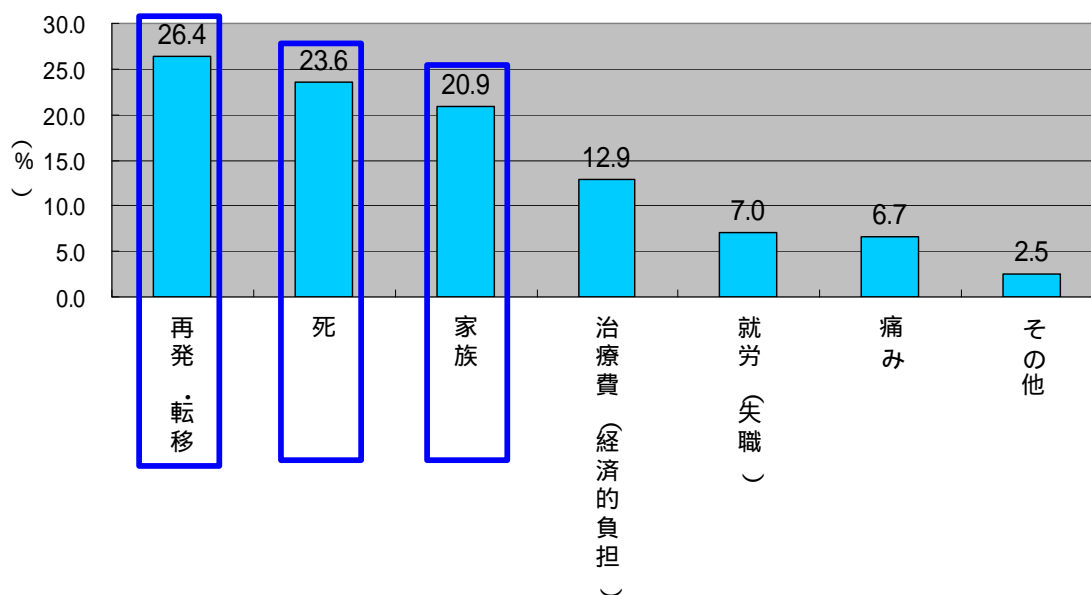
*『がん患者の悩み・ニーズに関する実態調査』の詳細は、
http://www.aflac.co.jp/news_pdf/2009062200.pdfを参照。

2. がんに関する不安について

Q1. (がんの経験の無い人に質問) がんと聞いて最初に何を心配しますか？ (N=25,917)
 (3つまで選択)

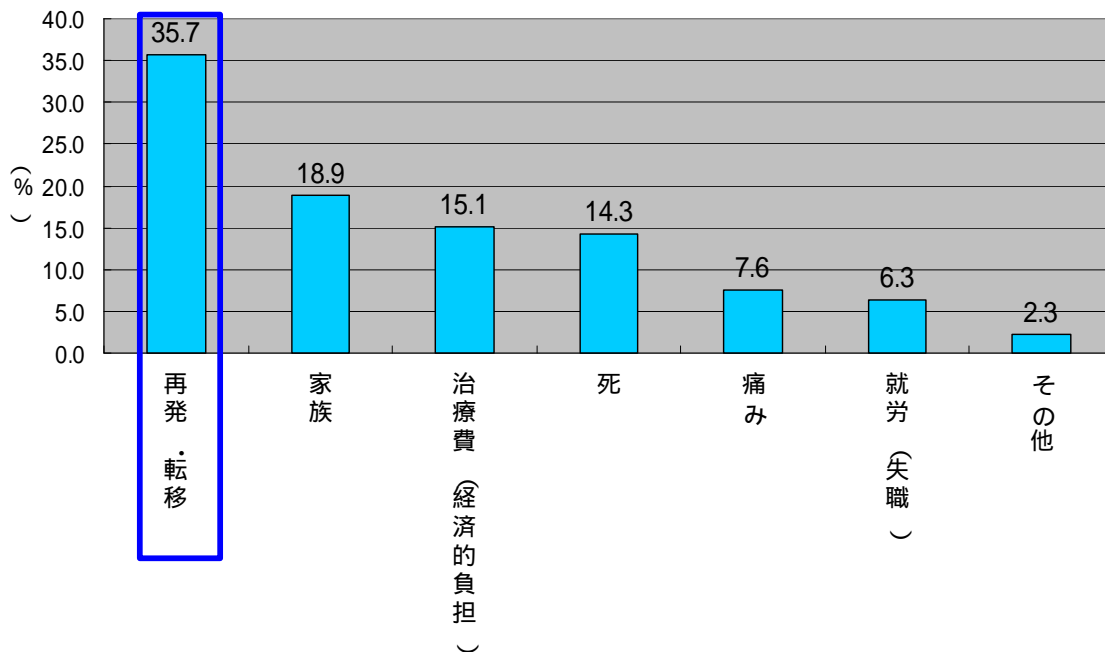


Q2. (がんの経験のある人に質問) がんと知って最初に何を心配しましたか？ (N=1,532)
 (3つまで選択)



Q3. (がん経験のある人に質問) 治療中、何を最も心配しましたか？
(3つまで選択)

(N = 1,495)



がんに関する不安については、がんの未経験者と経験者で大きく異なる結果となった。また、がんであることを告知されてすぐに感じる不安と、治療が開始されて以降に感じる不安も異なった。

がんの未経験者は、がんになった場合の心配事として「治療費 (経済的負担)」「家族」など自分自身の問題よりも、むしろ自分を取り巻く周辺への心配が先に立つ傾向が見られる。

がん経験者が、がんと知って最初に心配したことは「再発・転移」「死」となっており、周辺のことよりも自分自身の心配に意識が向けられることがうかがえる。

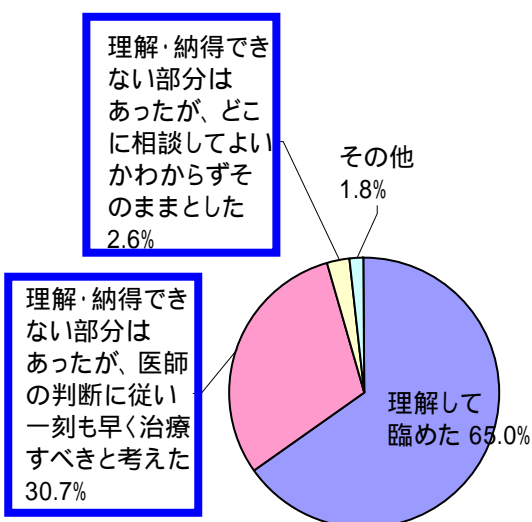
また、がんの治療を開始した人にとっては、治療が長期化する要因となりうる「再発・転移」が心配であると答えた割合が 35.7% となり、それ以外の項目を大きく上回る結果となった。

「家族」に関しては、がんの経験の有無を問わず、不安の上位に挙げられており、告知時に家族の同席を望む結果と同様、「家族」が非常に重要な存在であると見てとれる。

Q4. (がん経験のある人に質問) 主治医の説明・治療方針を理解・納得したうえで治療に臨みましたか？

(名)

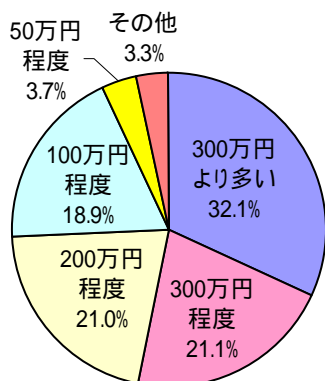
理解して臨めた	481
理解・納得できない部分はあったが、医師の判断に従い一刻も早く治療すべきと考えた	227
理解・納得できない部分はあったが、どこに相談してよいかわからずそのままとした	19
その他	13
合計	740



約3割の人が「理解・納得できない部分はあった」としている。医療技術は日進月歩で発達しており、医師や医療機関によって提供される治療が必ずしも画一的でない上、インターネット全盛の現代においては情報が溢れており、患者が受けたいと考える治療も様々。正しい知識を備え、適切なアドバイスを受けることで、それぞれの治療にどのようなメリット・デメリットがあるのかを多角的に知り、納得のいく治療を選択することが望まれる。

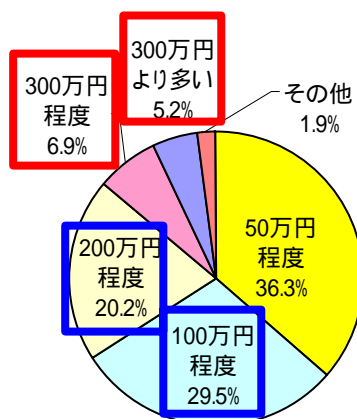
3. がん治療費用について

Q1. (がん経験の無い人に質問) がん治療全般に関わる費用(入院、食事、交通費等を含む)はどの程度だと思いますか？



(名)	
300万円より多い	3,698
300万円程度	2,428
200万円程度	2,416
100万円程度	2,180
50万円程度	426
その他	380
合計	11,528

Q2. (がん経験のある人に質問) がん治療全般に関わる費用(入院、食事、交通費等を含む)は総額いくらぐらいでしたか？

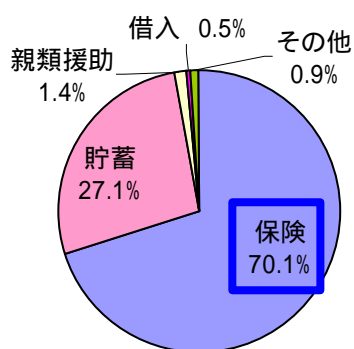


(名)	
50万円程度	215
100万円程度	175
200万円程度	120
300万円程度	41
300万円より多い	31
その他	11
合計	593

がん未経験者の想定では、治療費に「300万円以上」を要すると回答した人が最も多かった。これは、がんに対する深刻なイメージや治療の長期化を懸念しての回答だと考えられる。がん経験者の回答は、「50万円程度」が36.3%である一方、「100～200万円程度」が約半数の49.7%、「300万円程度～それ以上」という回答も12.1%あった。

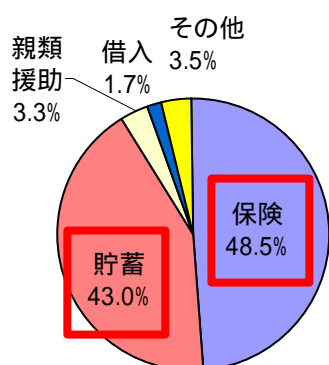
治療費については、自己負担分のみか、健康食品など付随的な費用も含む“がん治療に関わる総額”と考えるかによって異なるほか、がん経験者においては、がんのステージ、再発・転移の有無によっても異なるなど、統一的な定義に基づく回答が得難いという点は留意する必要がある。早期発見・早期治療によって治療費を抑えられるケースもあれば、再発・転移等によって300万円を超えるケースもある。経済的負担に対する一定の備えは、やはり重要であると考えられる。

Q3. (がん経験の無い人に質問) 治療費をまかなうには何が有効だと思いますか？



	(名)
保険	10,261
貯蓄	3,958
親類援助	203
借入	72
その他	136
合計	14,630

Q4. (がん経験のある人に質問) 治療費は主に何でまかないましたか？

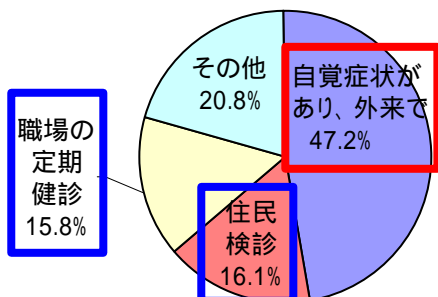


	(名)
保険	473
貯蓄	419
親類援助	32
借入	17
その他	34
合計	975

がん経験のない人の7割が、治療費をまかなうにあたって保険が有効であると回答したのに対し、実際の治療費を「保険」でまかなったがん経験のある人の割合は48.5%と、そこには大きな隔たりが認められる。また、治療費をまかなう手段としての保険は、貯蓄を抑えてトップであり、がんの経済的負担に保険が大きな役割を果たしていることが改めて明らかとなった。

4. がん検診受診について

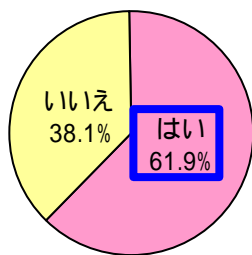
Q1. (がん経験のある人に質問) がんは何で発見しましたか？



	(名)
自覚症状があり、外来で	352
市区町村の住民検診	120
職場の定期健診	118
その他	155
合計	745

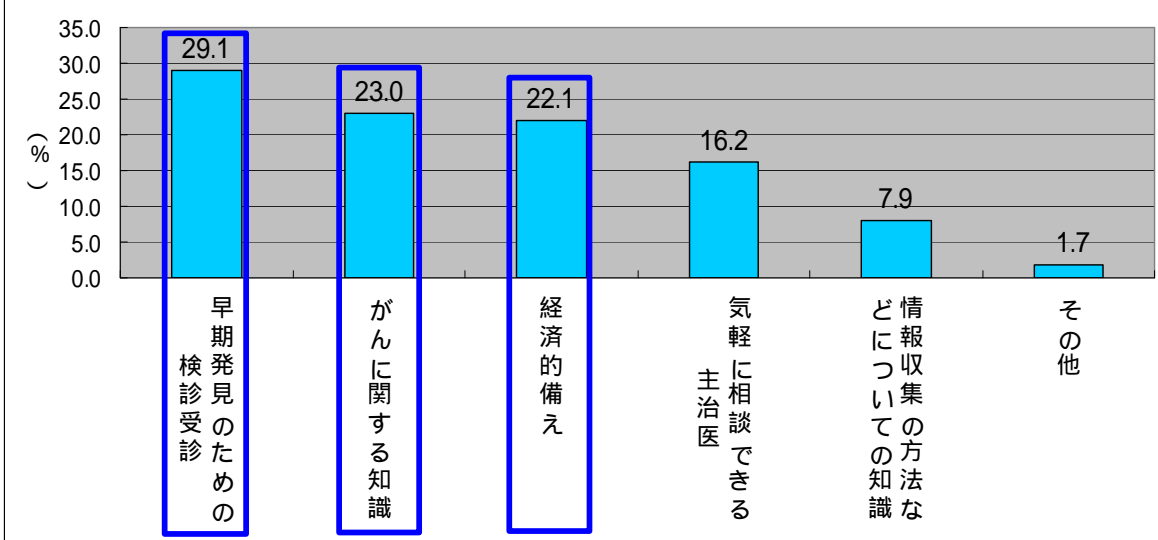
がんを発見したきっかけは、「自覚症状があり、外来で」と回答した人が47.2%と半数近くを占める一方、定期健診や住民検診で発見された人も31.9%にのぼった。なお、外来受診で発見された人が、定期的な検診を受けていたかについては不明。「その他」とした人の中には、「人間ドックで発見」との回答も見られ、定期的なヘルスチェックは早期発見には有効といえよう。

Q2. 毎年、市区町村や職場による定期健診やがん検診を受けていますか？
 (がん経験の無い11,199名が回答)



定期健診やがん検診を受けていると回答した人は、6割を超え、がんに関するイベント来場者ゆえのがんへの関心の高さがうかがえる。なお、「いいえ」と回答した人の中には、職場での定期健診や住民検診の一部が「がん検診」を担っていることを認識していない可能性があり、この点はさらなる啓発が必要である。

Q3.(がん経験のある人に質問) がんを経験して、あらかじめ備えたほうがよいと思ったことは何ですか？ (3つまで選択) (N=1,762)



がん経験を持つ人が必要だと考える“がんへの備え”は、多い順に「早期発見のための検診受診」「がんに関する知識」「経済的備え」が挙げられた。2人に1人がかかると言われる身近な「がん」に備えるため、「検診」「知識」「保障」は“三種の神器”といえそうだ。

今回の調査結果について、厚生労働省が主催する「がんに関する普及啓発懇談会」の座長を務める東京大学医学部附属病院放射線科の中川恵一准教授より、以下のコメントを頂戴しております。

わが国は、国民の2人に1人が、がんになり、3人に1人が、がんで死亡する、「世界一のがん大国」です。実際、「最も心配な病気」として、9割近い方が、がんを挙げています。がんは誰にとっても当事者になりえる疾患であり、決して他人事ではないのです。

その一方で、国民のがんに関する知識は乏しく、誤解も少なくありません。「がんは家系による」という“迷信”がはびこっていますが、「家系」によるがんは、全体の5%にすぎません。むしろ、生活習慣が重要なのです。

がんで命を落とさないためには、がんにならない生活習慣（禁煙が一番大事）と早期発見の「2段階構え」が大切です。このことは、「世界一のがん大国」に生きる国民がぜひとも知っておくべきことですが、学校でもほとんど教えてくれません。

今回、「あらかじめがん備えの方がよいこと」として、がん経験者から、「検診受診」「がんに関する知識」「経済的備え」との声が多く寄せられています。国・地方自治体・企業はがんに関する啓発活動をもっと積極的に推進していく必要があります。とくに、検診受診率を向上させることは、がんで亡くなる方を減らす上で非常に有効なのです。

がんを『自分ごと』として捉えることが大事です。がんについての理解を深め、がん検診を受けましょう。

<参考> がんに関するイベント実績(2010年2月～12月)

開催地	イベント名	開催時期	会場	来場者数(名)
1		2月19日～21日	セントラルパーク	332
2	愛知県 ゴールドリボン心のメッセージ展	2月26日～27日	リーフウォーク稲沢	398
3		3月3日～4日	イオンモール岡崎	411
4		徳島県 がんを知る全国フォーラム	2月20日	あわぎんホール
5	鹿児島県 全国巡回がんセミナー	2月21日	鹿児島県医師会館	250
6	千葉県 がんを知る展	2月22日	アリオ蘇我	254
7		2月23日	木更津グリーンシティショッピングセンター	223
8		2月27日	イオン千代緑ヶ丘ショッピングセンター	1,222
9	神奈川県 がんを知る全国フォーラム	2月27日	関内ホール	700
10	新潟県 がんを知る展	3月1日～3日	上越ショッピングセンターアコーレ	534
11		3月7日～9日	イオン新潟南ショッピングセンター	703
12		3月11日～13日	ジャスコ六日町	154
13	福岡県 がんを知る全国フォーラム	3月6日	エルガーラホール	650
14	佐賀県 がんを知る展	3月18日～20日	佐賀県庁 新行政棟1F(県民ホール)	653
15	埼玉県 全国巡回がんセミナー	4月9日	文化センター 小ホール(しらさぎホール)	250
16	千葉県 がんを知る展	5月15日～16日	ユニクス野田	416
17	秋田県 全国巡回がんセミナー	5月19日	秋田市文化会館 小ホール	350
18	岡山県 がんを知る展	5月21日～23日	福武ジョリービル(3Fパールホール)	279
19	京都府 がんを知る展	6月4日～6日	イオンモール ハナ(1F吹き抜けホール)	3,301
20	栃木県 チャリティーコンサート	6月10日	栃木県総合文化センター(メインホール)	1,250
21	長野県 がんを知る全国フォーラム	7月3日	長野県県民文化会館	711
22			ホクト文化ホール 中ホール	1,000
23	静岡県 がんを知る展～自分らしく生きるために～	7月10日～11日	エコパアリーナ	500
24	宮城県 明日へつなぐ健康セミナー	7月14日	宮城県電力ホール	750
25	広島県 がんを知る全国フォーラム	7月19日	広島国際会議場 フェニックスホール	1,400
26	鳥取県 がん検診受診率向上シンポジウム	7月31日	米子コンベンションセンター国際会議室	280
27	長崎県 がんを知る展～自分らしく生きるために～	8月6日～8日	長崎新聞文化ホール アストピア(1F展示ホール)	334
28	山形県 がんを知る展～自分らしく生きるために～	8月20日～21日	エスモール(鶴岡市)	409
29		8月22日～23日	米沢サティ(米沢市)	577
30		8月25日～26日	こらっせ新庄(新庄市)	502
31		8月28日～29日	大沼山形本店(山形市)	274
32	山口県 チャリティーコンサート	8月25日	周南市民文化会館 大ホール	1,050
33	大分県 チャリティーコンサート	9月1日	iichiko総合文化センター グランシアタ	1,300
34	大阪府 朝日がんセミナー もっと健康もとがん検診	9月5日	エル・おおさか(エル・シアター)	514
35	福井県 全国巡回がんセミナー 検診受けて早期発見!	9月10日	フェニックス・プラザホール	420
36	静岡県 静岡女子のイブニングセッション'女のきれいは健康力'	9月16日	グランシップ 中ホール	500
37	大阪府 第16回日本癌学会市民公開講座 最新のがん研究から治療まで	9月25日	堂島リバーフォーラム	856
38	和歌山県 がんを知る全国フォーラム	9月25日	きのくに志学館 メディア・アートホール	300
39	奈良県 がんを知る全国フォーラム	10月3日	奈良県新公会堂	500
40	静岡県 がんを知る展～ハッピープロジェクト子育て来楽部～	10月9日～10日	ツインメッセ静岡	10,000
41	兵庫県 チャリティーコンサート	10月14日	神戸市文化ホール 大ホール	1,300
42	北海道 がんを知る展	10月12日～16日	札幌信用金庫	71
43	大阪府 大阪ヘルスジャンボリー	10月16日	長居公園 花と緑と自然の情報センター	-
44	北海道 がんを知る展	10月19日～26日	留萌信用金庫本店	247
45	群馬県 がんを知る展	10月22日～24日	イオンモール高崎(セントラルコート)	1,539
46	鹿児島県 2010ピンクリボン	10月24日	鹿児島市中央公園	800
47	大阪府 2010大阪教育大学 神霜祭 がんを知る展	11月1日	大阪教育大学	-
48	熊本県 がんを知る展～自分らしく生きるために～	11月5日～7日	イオンモール熊本クレア(イーストスクエア)	1,460
49	香川県 がんを知る展～自分らしく生きるために～	11月19日～21日	イオン高松(サンセットコート)	1,308
50	新潟県 がんを知るセミナー～さんしん11月講演会～	11月13日	三条信用金庫	250
51	岐阜県 十六銀行 第3回セミナー'がんのひみつ'	11月16日	じゅうろくプラザ	200
52	岩手県 がん検診受診率向上シンポジウム	11月28日	ホテルメトロポリタン盛岡	350
53	福島県 がんを知る全国フォーラム	11月28日	ビックバレットふくしま	500
54	三重県 チャリティーコンサート	12月1日	三重県文化会館	-
55	沖縄県 がん検診受診率向上シンポジウム	12月11日	ロワジールホテル&スパタワー那覇 天妃の間	400
56	東京都 チャリティーコンサート	12月15日	調布市グリーンホール	1,168
合計			56会場	44,900

※ イベント来場者数は概算